第○学年　　○○科学習指導案

令和○年○○月○○日○校時

○年○組　○○名

授業者　○○　○○

**【年間指導計画の位置付け　　○○学年　　○○月計画　Ｐ（○○）】**

1 単元名

○教科によって題材名となる場合もある。教材名を記述してもよい。

２ 単元目標

○学習指導要領から、本単元での到達目標を明記する「何を学ばせたいのか」、「どのような資質・能力を育てたいのか」を具体的に記述する。

○教科によっては観点別に記述してよい。

３ 単元について

（１）～（３）はまとめてもよい。

（１）教材観

○学習指導要領から本単元に係る目標や内容に即し、教材の持つ価値や活用する理由を述べ、児童生徒の変容の期待について

記述する。他の単元との関連や系統性も記述する。

○教材の分析や素材の魅力について記述する。

（２）児童（生徒）観

○既習事項の定着状況や事前テスト（全国学力・学習状況調査，沖縄県学力到達度調査，沖縄県学力定着状況調査，沖縄県児童生

徒質問紙調査等含む），評価やアンケートの分析した実態や。分析からの課題に現在どう取り組んでいるかを記述する。

○数値で表されるものは，できるだけ数値で記述する。

（３）指導観

○学習指導要領解説を読み込んだ上で、「教材観・児童観（生徒観）」を踏まえ、**単元全体**及び**本時の内容**をどのように指導していくかを具体的に記述する。

（４）校内研修テーマとの関わり （２年研、**中堅研**については、個人のテーマとの関わりを記述する。）

○本単元の授業を通して、どのように校内研修のテーマに迫っていくか、児童生徒にどのような変容を期待するのかを具体的に記述する。

（５）単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ○学習指導要領の内容や『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』等を活用する。  ○単元目標との整合性を図る。「Ｂ：おおむね満足できる状況」の記述にする。 |  |  |

（６）指導と評価の計画（○時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時  間 | ◇ねらい　○学習活動 | 重点 | 記録 | 評価規準〈評価方法〉 |
|  | 「知識・技能」は「知」、「思考・判断・表現」は「思」、「主体的に学習に取り組む態度」は「態」 | 知 |  |  |
|  |  | 思 | 〇 | ○記録に残す評価の場合に「○」とする。 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  | ○『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』を参考に、各教科・領域に合わせて指導と評価の計画を作成する。（本時については太枠で囲む。）  ○評価場面を精選し、単元のまとまりを意識した評価規準（指導に生かす評価〔学習状況の把握等〕・記録に残す評価〔全員を記録し評定にいかす評価〕にする。また「Ｂ：おおむね満足できる状況」の記述にする。  ○記録の欄に「○」が付いてない授業においても、教師が児童生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かすことが重要である。 |

４ 本時の学習【○／●時間】

1. 本時の目標（本時のねらい）

＜生徒指導の４つのポイント＞○自己存在感の感受○共感的な人間関係の育成○自己決定の場の提供

　　　　〇安全・安心な風土の醸成

をいかした場面を記述する。

○単元の目標を踏まえ，本時の具体的な目標を記述する。

○本時の学習を通して育成する資質や能力について明記し，目指す児童生徒像を示す。

1. 展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容・活動  （発問含む） | 予想される子供の姿及び教師の手立て  （個への具体的な働きかけも記述する） | 評価規準【観点】(方法）  ＜生徒指導の４つのポイント＞ |
| 導  入  ○  分 | 【前時の学習の確認】前時の復習や本時で活用する事項の確認など  めあてや目標　身に付けさせたい力を踏まえた「めあて」の設定・提示　　　　　　　学習者にとって追究したい価値ある課題の設定 |  | 「『問い』が生まれる授業サポートガイド」p８～９を参考に，めあてを設定・提示する。  ・評価規準【観点】(方法)を記述する。  「生徒指導の４つのポイント」については、『生徒指導提要』（R４）p46～48を参考にして、学習内容・活動を踏まえて重点となる項目を記述する。 |
| 展  開  ○  分 |  | ・個への手立ても具体的に記述する。  【思考させる工夫】  発問の工夫・学習形態（一人，ペア，グループ，一斉）の工夫・言語活動の工夫等  「『問い』が生まれる授業サポートガイド」p８～９を参考に、まとめ、振り返りを行う。子どもによるまとめの例を記述する。 |
| 終末  ○分 | 「めあて」に正対した「まとめ」「ふり返り」をする。  【めあてがどれくらい達成できたか振り返らせる工夫】  【次時の予告】 | 【めあてがどれくらい達成できたか振り返り、学びを実感させる工夫】  【次時の予告】 |

1. 板書計画

○（２）の展開と重複する所が多い場合は、なくてもよい。

○板書計画の画像の挿入、または別紙での提示でもよい。

以下の①から④を活用して学習指導案を作成すること　　　　（※確認後、指導案からは削除してください。）

①小学校(中学校)学習指導要領解説 各教科 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文部科学省

②『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』 　　　　　　　　 国立教育政策研究所

③学力向上推進５か年プラン・プロジェクトⅡ　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　沖縄県教育委員会

④「問い」が生まれる授業サポートガイド　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　沖縄県教育委員会

⑤生徒指導提要（改訂版）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和４年１２月　文部科学省